

令和7年度 第2回鳥取県公共事業評価委員会 議事録

- 1 日 時 【会 議】令和7年9月10日（水）10:00～11:20
- 2 場 所 【会 議】県庁 議会棟3階 特別会議室
- 3 出席者 【委 員】猪迫会長、塩沢会長代理、※藤内委員、※上野委員、※笠岡委員、小谷委員、橋本委員
※：オンライン参加者
【説 明 者】額道路建設課長
【事 務 局】村上会計管理者、谷野工事検査課長ほか工事検査課職員
【傍聴者等】建設工業新聞記者 計1名

4 概 要

(1) 開会・会議の成立

- ・10名中7名の委員の出席（過半数出席）により、令和7年度第2回評価委員会が成立する旨の報告。

(2) 議事録署名委員の指名等

- ・会長が、塩沢委員と上野委員を議事録署名委員に指名。
- ・会議内容を非公開とする特段の理由はなく、公開を決定。

(3) 評価対象事業の概要説明、質疑等

【概要説明】

○一般国道179号道路改築事業（はわいバイパス）

事業担当課長が資料及びパワーポイントを用いて概要説明。

【質疑応答】

○一般国道179号道路改築事業（はわいバイパス）

（会長）

鳥取県地域防災計画では、災害時には緊急輸送道路は24時間以内に啓開を概ね完了することを目標としているとのことだが、はわいバイパスが浸水するような状況では、周辺の道路はさらに浸水している可能性が高いため、啓開作業に必要な人員や建設機械が現場に到達できないために、目標とする24時間以内での啓開ができないのではないかという懸念があるが、具体的な対応は想定されているか。

(事業担当課)

大規模な水害で湯梨浜町全体が浸水し、現地への接近が不可能な場合は、水が引くのを待ってから復旧作業を開始することになる。浸水想定シミュレーションでは、水が引いてはわいバイパスの路面が現れるまで約 5 時間程度とされており、はわいバイパスは周辺の地盤よりも盛土が高いため、水が引く時間は比較的早く、優先して啓開作業に着手できると考えている。一方で、ご指摘のとおり、周辺道路の浸水が継続している場合は、はわいバイパスの現場に到達できない可能性があるため、その場合は周辺状況を確認しながら、緊急輸送道路は最優先で対応し、24 時間以内の啓開を目標として進める方針となっている。

(会長)

国土交通省の「費用便益分析マニュアル」の内容の訂正に伴い、便益を再算定されているが、便益がわずかに減少しているものの、費用便益比に与える影響は極めて小さいものであったということでしょうか。

(事業担当課)

費用便益比に与える影響は極めて小さいものであったと考えている。具体的には、基本便益に基づく費用便益比は表示桁数の範囲内で変更なし、拡張便益を含めた総便益に基づく費用便益比は 0.01 減少という結果であった。

(委員)

はわいバイパスは周囲の土地より高い位置に道路ができるが、浸水等が発生した場合の避難場所のような役割は想定しているか。

(事業担当課)

避難場所としては想定していない。

(会長)

鳥取県の災害対策において、住民の避難所は想定されていると思うが、車の避難場所は想定されているか。他県の事例で、水害が発生するときに車を高い場所に避難させ水没を免れるという話を聞いたことがあったため確認したい。

(事業担当課)

鳥取県内では、水害発生時の車の避難場所の想定はないと思う。

(委員)

啓開作業時における人員・建設機械の搬入の話に関連して、北条道路の道路高の方が高く、浸水しないと考えられるため、搬入路として想定されているか。

(事業担当課)

災害の状況によって変わるが、北条道路は搬入路として有効であると考えてる。

(会長)

質問等尽きたようなので、審議に入りたいが、何か意見はあるか。

説明のとおり、定量的評価・定性的効果を合わせた総合評価で、事業を行う価値があると判定されており、この事業の継続は妥当であると結論付けることとしてよいか。

(委員)

継続妥当とすることに異議はない。

近年、物価が高騰し、県民生活も苦しい状況なので、引き続きコストの低減に努めることを付帯意見として付することを提案する。

(会長)

では、「近年、物価が高騰し、県民生活も苦しい状況なので、引き続き経費削減に努めていただきたい」旨を付帯意見とし、この事業の継続は妥当であると結論付けることとしてよいか。

(各委員)

(異議等の発言なし)

(会長)

それでは、付帯意見を付したうえで、この事業の継続は妥当であると結論付け、知事への答申案の作成に向かうこととする。

以上

令和7年9月10日

会 長

猪迫 耕二

署名委員

塩沢 健一

署名委員

上野 洋子